

・OS-1をLAN内に共存させる方法

OS-1は出荷時には192.168.1.10というIPアドレスがセットされています。またOSIO-1と組み合わせた場合にはSW2を押しながリセットすると強制的にIPアドレスが192.168.1.10に設定されて立ち上がります。

OS-1をLAN内に共存させるにはOS-1のIPアドレス設定をLANに適合するように変更する必要があります。たとえば今お使いのLANのIPアドレス空間が192.168.1.???だったとすれば話はシンプルです。運良く192.168.1.10というOS-1のデフォルトIPアドレスが使用されていないければLAN内にそのまま接続すればOKです。もし使用中であれば192.168.1.20などの空いているIPアドレスを設定します。IPアドレスが空いているかどうかはコマンドプロンプトからping IPアドレス を実行するとtime outが発生すれば(その時点では)そのIPは空いています。

しかしLANのアドレス空間が192.168.0.???だったとするとOS-1のIPアドレスも192.168.0.10に設定しなければなりません。もし192.168.0.10が使用中なら192.168.0.20など別なIPアドレスを設定する必要があります。要はIPアドレスの上位3つまでは同じ値でなければならないわけです。(NetMaskが255.255.255.0の場合です。殆どのLAN環境のNetMaskは255.255.255.0です。)

またOS-1からインターネット経由で外にアクセスする場合にはDefault Gatewayの設定が不可欠です。一般的にDefault GatewayはLAN空間の一番若いIPアドレスを与えるのが暗黙のルールですが例外も多々ありますのでご注意下さい。例えばLAN空間が192.168.1.???であればDefault Gatewayは192.168.1.1という場合が多いようです。一般的にDefault Gatewayはルーター自身のケースが殆どです。

www.silentsystem.jpなどの名前からIPアドレスを求めるDNSの設定も不可欠です。一般的にはルーターがDNSとして働きますのでDNSのIPアドレスはルーターのIPアドレスを設定すればOKですが、例外もあります。場合によっては契約しているプロバイダのDNSのIPアドレスを調べて設定する必要があるかもしれません。

とにかくIPアドレス、Default Gateway、DNSのIPの3つのパラメーターをまず決定してください。特にIPアドレスの衝突には十分注意して下さい。特に企業内でOS-1を利用する方は注意が必要です。企業などには数多くの機器が存在しています。たまたまpingコマンドを実行したときに電源が入っていないだけかもしれませんが。企業内でLANを管理している方がいるならばその方に固定IPアドレスを一つ発行してもらって下さい。同時にGatewayやDNSなどのIPアドレスも聞いて下さい。

それでは新しいIPアドレスをOS-1に設定します。パソコンを一時的にLANより切り離して代わりにOS-1をクロスケーブルで接続します。あるいはネットワークハブ経由でパソコンとOS-1の二台だけそれぞれストレートケーブルで普通に接続します。パソコンのIPアドレスを手動設定で192.168.1.2に設定します。OS-1にACアダプタを挿入して設定用のWebページにアクセスします。デフォルトではhttp://192.168.1.10で設定ページにアクセスできるはずです。アクセスできない場合はすでに何らかのIPアドレスが設定されているかもしれません。その場合にはSW2を押しながらリセットすると強制的に192.168.1.10にセットされます。

IPアドレス設定のページに入って新しいIPアドレスとDefault GatewayとDNS IPを設定します。最後に設定ボタンを押す事でOS-1のIPアドレスが変更されました。パソコンのLAN設定を今までどおりの設定に戻してください。再びパソコンからインターネットにアクセスできるようになればOKです。OS-1をリセットして再起動してください。確認の意味で新しいIPアドレスで設定ページにアクセスできればOKです。これでOS-1はお使いのLAN環境に適合しました。

次にDNSの動作チェックを行います。コマンドプロンプトを起動してtelnet 新 IPアドレス を実行してOS-1にtelnet接続してください。SilentCのプロンプトが現れますので以下のコマンドを入れてみてください。

```
PrAdrs(GetHostByName("smtp.nifty.com"));  
202.248.238.12  
OK
```

smtp.nifty.comというサーバーのIPアドレスが表示されればDNSの設定もOKです。このチェックによりOS-1が無事にDefault Gatewayを通じてDNSにアクセスしてサーバー名からIPアドレスが求められている事が確認されます。ここまでくればサイレントのサイト内にあるサンプルプログラムを動作させる準備が完了しました。

サンプル内で記述されているOS-1のIPアドレスはデフォルトの192.168.1.10ですが、変更した新アドレスに置き換えて操作するようにしてください。